令和4年度

徳島市八万学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

生徒自らが、積極的に学習に取り組もうとする姿勢の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
山田　王代 板東　幸治	校長　：大阪真智子　研修主任：山田　王代・板東　幸治 教頭　：吉田　光宏　1学年主任：北野　美嘉 教頭　：梶原　秀文　2学年主任：竹内　宏子 教務主任：武市　明典　3学年主任：板東　幸治

校長

大阪真智子

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

・学校評価アンケート、各テストなどによる現状把握、管理職による授業参観、教員自身の振り返りなどを活用

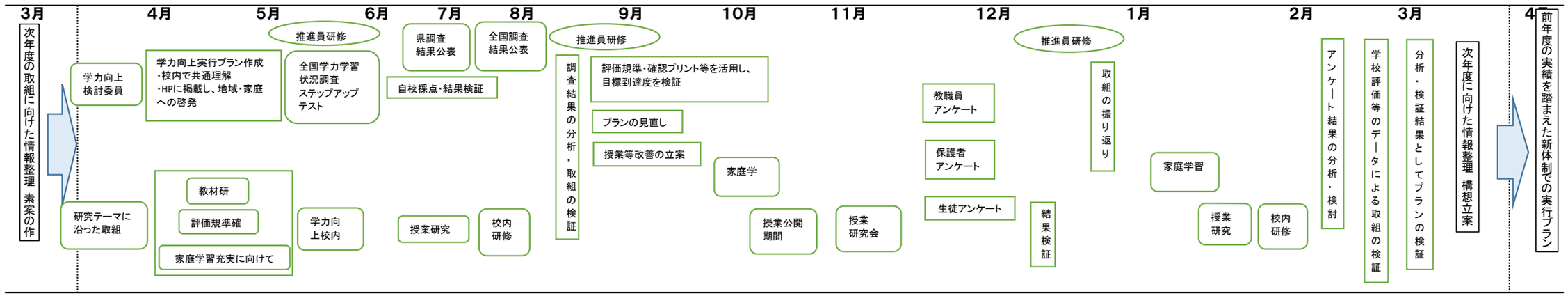
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業中は定着に向けて、真面目に取り組んでいる。そのため、ある程度の割合で、理解・正解ができている。 ●家庭学習の不足、整理ができていないまま丸覚えをしているなどのため、真の定着には結びついていない。	・家庭学習の充実による、基礎基本の定着	・「家庭学習の必要性」を生徒に理解させ、積み重ねることのできる実行力を育てる ・保護者への啓発	・授業は、ある程度集中したよい取組ができているため、その場での理 解はできている。 ・しかし、定期テストなどでは期待したほどの成果が出ていない。今後、 定着に向けてスモールステップでの 評価など、より丁寧な指導が求めら	・小テストなどにより、自らの振り返りを増やすことで、「学習の仕方」をよりよいものにしようと、意識高く学習と向き合うことができ、それにより以前よりは定着率が向上した。	・「学習の仕方」を改善することで、より向 上するという意識を持たせることが必要で ある。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○思考が求められる発問に対しても、積極的に考えようとする生徒は一定数いる。 ○ノートへのまとめ方が工夫したまとめ方ができるようになりつつある。 ●文章にまとめたり、人にわかりやすく説明したりする力は、まだ不十分である。	・整理する力 ・読み取る力 ・まとめる力 ・説明する力 を伸ばす	・「思考」させる発問の工夫 ・よりよいノートづくりの指導 ・わかりやすくまとめる力・説明する力を育てるための授業の工夫	・「よりよいノートづくり」の意識 は見られる ・「読み取る力」はまだ不十分 である ・「説明する力・まとめる力」は	・「よりよいノートづくり」は定着しつつある ・「説明する力・まとめる力」については、以前と比べて、記述問題への抵抗感は少なくなりつつある。 ・「読み取る力」は、まだ発展途上である	・「説明する・まとめる力」をさらに伸ばすための工夫 ・「読み取る力」を身につけていくための手立てを各教科で考えていく

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業中は、発問に意欲的に取り組もうとする生徒、友だちと学び合いができる生徒は多数いる。 ●与えられた課題には真面目に取り組む生徒が多いが、自ら課題を見つけ、対策を立て、計画立てた取組ができている生徒は少ない。 ●授業の振り返りを行うことができていない教科は多い。	「振り返り」の定着 ・自らの理解度合いを振り返る ・不十分なところを見直す時間を取る ・自分の力に適した課題を見つけ、高めるための努力ができる	「振り返り」の定着 ・各教科で授業の振り返りを行う ・生徒自らが課題を見つけ、対策を立て、計画を立て、実行に移すことができるような力を育てる	・授業の振り返りが、徹底できていない現状がある。振り返りの時間を取ることができる［時間配分］［授業目標の明確化］などについて共通理解を行う必要がある	・年度当初は、授業の振り返りを行おうと共通理解したが、途中から徹底ができなくなってしまった。 ・生徒自身に「与えられたものをする」という感覚はまだ強い。「自ら動く」ことができる生徒を育てる必要がある	・「授業の振り返り」を共通理解 ・「自ら動く」ための方策を検討

令和4年度　学力向上ロードマップ